

共時性と 共空間性

山口洋典
同志社大学准教授

先般、京都市景観・まちづくりセン
ターの「京都まちづくり学生コンペ」
の審査で「夜街」なる提案を見て、圧
倒されました。ある近隣商店街を
対象に「閉店時間を過ぎた後の軒先を
第三者に貸し、その店に住まう方も、
他の店舗の軒先で新たに展開される内
容を楽しむ」というものでした。残念
ながら、特に担い手の問題から実現可能性が問われ、最終的な評価は高
くはなりません。しかし「同じ時間を共に過ごす」共時性よりも、
同じ空間でどこまで多様な経験を出来るかという「共空間性」への問いか
けだと解釈し、強い印象を抱きました。

私も利用者ながら、今広がりをしている「ツイッター」には、過度
に共時性が評価されています。これはインターネット上で自らの思いを
140文字までつぶやくサービスです。利用者が予め関心のある投稿者を
登録、あるいは利用者の興味があるキーワードで検索すると、その結果
が投稿時間の新しい順で表示されるシステムです。この流れは「タイム
ライン」と呼ばれ、他者のつぶやきを見ながら、自らがつぶやき、その
つぶやきに反応して誰かのつぶやきが重ねられると、コンピューターの
画面に表れる時間軸の中に、私の存在感を見取ることが出来ます。

私も含め、このような「言説空間」での存在感を楽しめる人々に触れ
ると、フランスの作家、ギー・ドゥ・ポールが1970年代に指摘した
「スペクタクルの社会」という視点を思い出させられます。社会の一員で
ある人々が、目の前に映し出される世界を受け身で楽しむ世界に浸って
いる状態に気づけていないことが問われた概念です。ここから、携帯電話
を通じて、手のひらの上に公共空間を持ち運び、世の中の動きに浸るこ
とができるツイッターは、時代の流れを見つめる観客に留らせてしまわ
ないか、という問いが浮かびます。まちという空間に持ち込まれたプラ
イベートな小宇宙をどう捉えるか、良い・悪い以外の価値観で捉える必
要がありそうです。

そもそも、まちの営みにおいては、そこに「居る」ことが存外重要と
されます。住居、居場所、立ち居振る舞いなど、多くの言葉にも埋め込
まれています。時間の流れに乗るだけでなく、空間の中に誰かと共に居
る、その作法を磨いていくことも大切です。自らが疎外されたくないから
インターネットにつながりを求める人々に、他者が疎外されないように
主体的に関わり合うコミュニケーションの原初的なあり方が問われてい
ます。



◎やまぐち・ひろのり
1975年静岡県静岡市出身。専門はグループ・
ダイナミクス。同志社大学大学院総合政策科
学研究科でソーシャル・イノベーション研究と教
育に従事。2006年5月に法然院で得度し浄土
宗宗徒、大阪・恵徳院主幹。



京・都・創・才

シリーズ11
低炭素社会での
100年住宅の暮らし



京都南インター
展示場にある
「真・京都型住宅」

国土交通省 地域住宅モデル普及推進事業「真・京都型住宅」
「真・京都型住宅」は、国土交通省によるパイロット事業「地域住宅モデル普及推進事業」の一環として、
真の京都型住宅を訴求することを目的に、国の補助を受けて建設されましたが、
副次的な目的といたしまして、建物構造や性能に関してもっとも過酷な気候環境に耐えうる木造住宅、
さらに、将来的に必然となるCO₂ゼロ住宅（※2021年EUモデル）を目指し、
様々な検証を深めながら、ゼロホームはより快適な暮らしを実現する「地球住宅」の創造に取り組んでまいります。
そこから学びえた技術、あるいは新たに見出した発想を活かしながら、
更に「低価格」「高品質」「厚管理」な100年住宅のご提供に努力いたします。

※2021年EUモデルの概要（2009/11/29配信ニュースより）
欧州連合（EU）は2021年以降に新築する住宅やオフィスビルなどについて原則として、二酸化炭素（CO₂）を実質的に排出しない「ゼロ建築物」とする義務付ける規制を導入する。
EU加盟27カ国と欧州議会が（2009年11月）28日まで合意した。2010年1月に閣内閣理事会などで正式に指令（法律）を採択した後、加盟国は4年以内に国内法を整備する。

ロビンソン・クルーソーに捧げる ゼロの「地球住宅」

拝啓
ロビンソン・クルーソー殿

南海の孤島に暮らす貴方に、
最も快適な地球住宅をお贈りします。
敬具

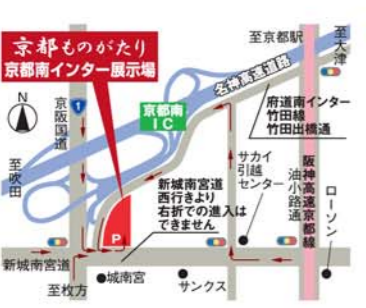
ゼロ・コーポレーションより

「真・京都型住宅」は、
次のような環境に耐えられる**地球住宅**を目指します。

- 南海の孤島での暮らしを快適にする住宅**
風速70mの暴風雨にも耐えられる性能を目指します
- アマゾンの奥地での暮らしを快適にする住宅**
極度の湿気から開放される性能を目指します
- 南極での暮らしを快適にする住宅**
零下30度の極度の寒さをしのぐことのできる性能を目指します
- サハラ砂漠での暮らしを快適にする住宅**
摂氏50度の極度の暑さをしのぐことのできる住宅を目指します

これらの過酷な地球環境に耐えるためには、
下記のような前提条件が必要です。
ゼロホームは実現に向けた研究・検証に取り組めます。

- ◇過酷な自然に耐えうる強度を持つ建物構造
- ◇自然エネルギーによる電力発電
- ◇省エネルギーを実現する住宅性能
- ◇自然を汚さない排水システム
- ◇省エネルギーの家電製品の活用
- ◇自然の水からつくる豊富な浄水
- ◇ストレスのないインターネット環境



「真・京都型住宅」は
京都南インター展示場
にて、ご覧いただけます

京都南IC第2出口降りてすぐ
TEL 7404746 * 84

